

# 新潟工科大学 数理・データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル） 令和5年度実施分 自己点検・自己評価結果

## 1. 授業データ

|                |                  |                |
|----------------|------------------|----------------|
| 科目名：IoTとAIの基礎  | 科目番号：02130       | 担当者氏名：堀雅和      |
| 履修登録者数(A)：168名 | 成績評価対象者数(B)：168名 | 単位修得者数(C)：143名 |
| 比率(C/A)：85.1%  | 比率(C/B)：85.1%    | 平均点：72.1点      |

## 2. 成績分布を踏まえた到達目標の達成状況について

シラバスに設定されている到達目標とレポートの課題はほぼ対応しており、提出された内容より多くの受講生はIoTとAIに関する基本的なことは理解したと判断でき、到達目標を概ね達成できている。

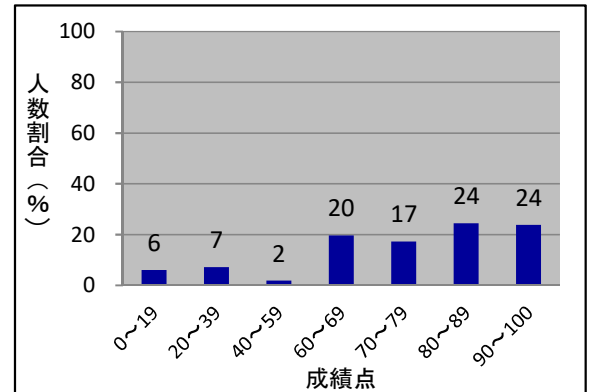


図1. 成績分布

## 3. 学生による授業評価アンケート結果について

アンケート結果から、昨年度に比べて受講生の評価は、より好意的なものになったことが見てとれる。授業において、毎回クイズを数問する等手や頭を使う時間を増やすようにしたことが一因と考えられる。それ以外の手法を取り入れることを検討するなど、継続した改善を実施している。

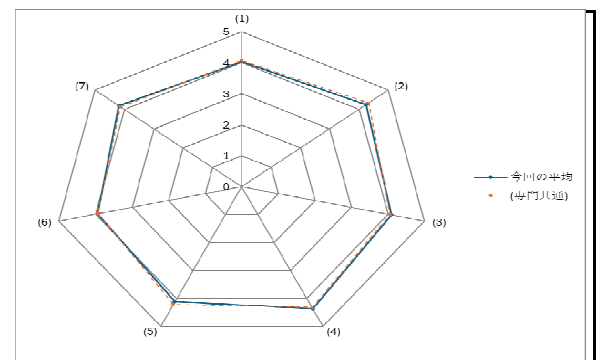


図2. 授業評価アンケート結果

## 4. 教育効果向上へ向けた取り組みについて

- ①ブラックボックスにしか見えていないシステムを極力ホワイトボックス化するために、特にレポート課題の対象を、実際にシステムを動かして考えるようなものに工夫している。
- ②授業中のクイズは、新しく登場した知識の確認をするものだけでなく、各自のアイデアを問いかけるものも随時入れるようにしており、その結果をフィードバックすることで、他の人の意見に触れるなど学習意欲を掻き立てる工夫がされている。
- ③最終回の企業研究者の授業は、「現実世界との関わりがよく理解できた」等、アンケート結果はとても良く、工夫の成果が伺える。

## 5. 今後の授業改善のための課題や方策について

現在の取り組みをより良くしていくため、次の方策を講じる。

- ①学生とともにインタラクティブに授業を進める。
- ②確実に獲得すべき知識の範囲を明確にし、学生と共有する。